

第8回

2007年 Web連動の
新企画がはじまります!

読者とライテク。

Let's Enjoy Running Together Now!

今月のバイク

ビューエルXBシリーズ



大谷清さん

XB12Sで参加の大谷さんはバイク歴5年の23歳。ドゥカティの試乗会にも行ったことがあるがビューエルの乗り味が気に入って、最初は青のXB9Rに2年、そして現在のXB12Sを購入した。



江川昭義さん

XB12Rに乗る江川さんは今日がサーキットデビュー。愛車だったゼファーを盗難され3年のブランクのあとにバイクに復帰。その際ドカとも迷ったが面白そうだとXB12Rを購入。ちょっと緊張。



今月のテーマ車両は個性派アメリカン、ビューエル。

そして今回も、年齢もキャリアも異なる

個性的なライダーが那須に集ってくれました。

さて、みなさんの走りは

どう変わっていくのでしょうか。

PHOTO/HNAGANO TEXT/T.TAKETAZU

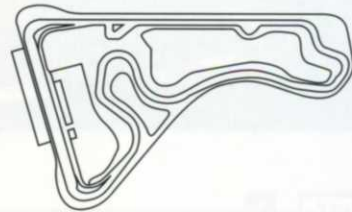
取材協力 / レッドバロン <http://www.redbaron.co.jp> 那須モータースポーツランド TEL0287-62-6358

ハーレーダビッドソン レインボー TEL029-822-6666 <http://www.rainbow-mc.jp>

フリーダムナナ多摩店 TEL042-670-5307 <http://www.freedom7-tama.jp/>

取材を行ったのは 那須モータースポーツランド

レッドバロングループによって完全復活した那須モータースポーツランドは、ワインディングを切り取ったような1周1.2キロの走りごたえのあるコース。本誌ライディングパーティのホームグラウンドでもある。ビギナーには馴染みやすくベテランには手強い、まさにライテクにはもってこいのコースなのだ。



江橋拓也さん

一時はライディングを極めようとヤマハR6も購入するが2カ月で大破。1年のブランクを経てビューエルX1（これも大破）、またX1、そして今年1月にXB12Rを購入したツワモノさん41歳。



東真覚彦さん

BMWを乗り継ぎスポーツスターに寄り道してビューエルX1を経てXB12Ssに辿り着いたやんちゃ盛りの46歳。現在もBMWとゼファーを所有。ヘルメットは奥さんからのプレゼントでこの日デビュー。



なビューエルオーナーの走りだった。とくに江橋さんと東さんは走行ペースも速いため、コーナーの奥で「おりゃっ！」ともうひと寝

かしさせる傾向がある。舗装の良いサーキットなら問題ないけれど、公道でコレは危険。もし何かの拍子に曲がりきれなかったりしたら、ひとたまりもないからだ。

そこで今回は、曲がりはじめのキッカケづくりを意識して、いろんな方法を試してもらいました。つまり「あそこで曲がる」と決めた場所から確実に曲がりはじめられるという自信をつけてもらいます。

幸い、ビューエルはエンブレがキツいため、みなさん自然とギヤは高め。エンブレを頼りにしない走り方はすでに身につけているよう



です。ならばブレーキや体重移動をキッカケにした、安心して曲がれるコツをつかんでしましましょう！

CASE - 3



BEFORE

リーン初期で向き変えせずに、奥でエイッと曲げていた江橋さん。奥に行くほど徐々にバンクが深くなっていく典型的なパターン。

気合い乗りよ、さらば！

高い進入速度でコーナーに入り、しかしバンクはしてるけど旋回力は引き出せず、奥で「オリャッ」と“もうひと寝かし”



していた江橋さん。リーンの瞬間、バイクを外に一度振り出してから倒し込むクセがついていたので、あらかじめフォームを作っておく走りを試してもらおうとこの通り。



AFTER

CASE - 4



BEFORE

腰はちょっとズラすけれど、リーンのタイミングで一連の動きを行っていたため、バイクから体重が抜けがち。とくに左で顕著だった。

リーン直後のグラリを解消！

曲がりはじめた次の瞬間、フッとバイクを起こしていた東さん。本人は「そう？」と気づい



ていないが、これは気合いが先行してバイクを倒そうとしているライダーに多いパターン。とくに苦手だという左コーナーで顕著だった。その悩みを解決すると……。



AFTER

U.F.B +
読者と
ライテク。
Let's Enjoy
Running Together Now!

フォーム改善で走りが激変!

オリヤットコーナー後半でバンク角を増やし、勢いで乗りこなしていた江橋さんには、まずバンクしはじめてから効率よく曲がるフォームを試してもらった。その上で、たとえば忙しい切り返しでも一瞬バイクが直立したストップモーションをつくり、そこからブレーキリリースで向き変えるようにとアドバイス。

最初は「上手いかないなあ」とお悩

下半身は外足でホールド。ステップを前に蹴るようにするとタンクと太ももが密着するの
がわかる。1日思いきり走ると、タンクの角と触れた部分が痛くなるくらいなのである。



みの様子だったが、ブレーキリリースのコツをつかんだ瞬間、一気に開眼! さらに、このブレーキリリースのタイミングに合わせてタンクと触れている太ももの力を抜くことで、さらに効率よく荷重コントロールができると教えると、進入から出口までヒザを擦りっぱなしになっちゃいました。これには江橋さん狂喜! 「楽しい。いやホントに楽しい!」。進入速度も最初とは比べ物にならないほど高くなって、すっかりイケイケに。



イン側のヒジは突っ張らず、ちょっと余裕を持たせる感じで。絶対に力はいれないこと。



横でなく斜めにズラし 常に後輪を意識する

それまで横に腰をズラしていた江橋さんのフォームを改造。外足を蹴り出すように腰を回し、腰を斜めに落とす感じでズラしてもらう。下半身は外足とタンクと太ももが触れる部分でしっかりホールド、上半身からは力を抜く。

得意な右と同じに曲がるには…

「左がどうも苦手なんだよね」と東さん。たしかに左コーナーでは上半身が開き気味で、シートから体重が抜けがちに見える。それが余計に不安を駆り立て曲がらなさんと焦らせる。するとバイクを勢いで倒しがちになるが、バイクとの一体感が得られていないため、無意識にバイクを起こしてしまっていた。そこで、

得意な右と同じように荷重がかけやすくなるようフォームを修正。その上でブレーキリリースによる進入の向き変えを試してもらうことに。そしたらいきなりヒザ擦ってるし! コツを掴んでからの走りの変化は江橋さん同様、東さんも凄まじかった。「もうヒザのスライダーは飾りじゃありませんヨ」困ったものです。

得意な右は こんな感じで

得意な右コーナーでは意識せずとも上半身の力が抜け、バイクにしっかり荷重がかかっている状態。これが左だとできないとお悩みの東さん。その気持ち、とてもよくわかります。



左は身体が 開いてしまう

得意な右に比べて左コーナーでは、どうしても横にズレる感じで身体が開いてしまいがち。曲げなきゃという意識が働くためだろうが、荷重も右ほどかからない。

斜めにズラして シートに荷重

身体を横にズラすのではなく、斜めにズレる感じで腰を落とす。必ずしも右と同じフォームにする必要はない。大切なのはバイクに体重があずけられているかなのだ。

り行きで乗ってしまいがちなように見うけられた。そこを明確なキッカケで曲がりをはじめにすることによってリスクも減り、満足度も上がるというわけ。

実際、今回もちょっとしたアドバイスを行うだけで、皆さんの走りはガラリと見違えた。江橋さんと東さんにいたっては、なんとヒザまで擦っちゃいました。そういう企画じゃな

いんだけどナァ……。全員が驚くほどスムーズな走りになり、最後の方は「アブナイからもうやめましょう」と、こちらが根を上げるほどヒートアップ。まったく、ビューエルに乗るオヤジライダーは、BMW オヤジに並んで始末が悪い。しかし皆さん実に楽しそうで、最高の笑顔でした。こちらも、シアワセな気持ちになりました。

次回のテーマ車両は トライアンフ2気筒!

次号はトライアンフの2気筒シリーズをテーマに、ジェントルなライディングを目指します。ビギナー、女性大歓迎です。我こそはというビューエルオーナーさんはroweb@ei-publishing.co.jpまで参加希望のメールをどしどしお送りください。取材地は引き続き那須モータースポーツランドです。ふるってご応募ください。